

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390500033		
法人名	医療法人 すえひろ会		
事業所名	グループホーム こうらく		
所在地	熊本県水俣市浜町1丁目12番9号		
自己評価作成日	H29年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年12月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年に設立され、早6年。恵まれた地域の環境に少しずつ馴染んできており、近隣の方の協力で庭には季節の花が絶えることがない。入居者の趣味の生け花の花材になっており喜ばれている。近くにバスの停留所やタクシー会社もあり、交通の便利が良く外出に利用しながら地域にある資源を活用し、社会とのつながりを大切にしている。入居者様やご家族様との信頼関係を築き、入居者様の思いに寄り添い笑顔あふれる暮らしを支えられるように努力している。法人の研修はもとより、外部研修にも積極的に参加し、職員の質の向上に努めている。グループホームが地域の中にある事業所の役割を今後も追究してゆきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、入居者の入れ替わりも進み、入居者同士が語り合いながらの自由な生活や、山から山野草を摘み秋を表現されていることへの職員への労いの言葉にグループホームリビングの本来の姿を映し出している。今年の“技”をテーマにしたホームの文化祭は、入居者の生きざまが表現され、自信回復につなげるとともに地域との交流促進として生かされている。また、自治会活動の一環である防災訓練への参加により消防団や地域との関係強化に反映させている。法人としての委員会活動が職員のケアやチーム力を高め、家族からの情報を生かした運営は入居者の日常にメリハリとなる等“何が出来るか”常に模索する等高い意識で臨むホームである。100歳という中でも独歩で「がんばらば」と自分に叱咤激励される姿や、労いあうことのできる入居者に、理念である「私は、わたしなりに生きてゆきたい」を具体的な形で実現させたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設して6年目を迎える。職員の入れ替わりもある中、開設時に全員で考えて作った理念に基づいて日々のケアを行っているが最近浸透が薄い。	入居者視点として「私は、わたしなりに生きてゆきたい」と、それを支える職員として“私たちは地域とともに寄り添い 心豊かな暮らしを支えます”を継続している。ホームの中での文化祭は、物心ともに豊かさや、近隣住民の作品展示に地域との関係性が表れている。職員の入れ替わりという中でも、労いあう事の出来る入居者にグループホーム本来の姿が垣間見えるホームである。	管理者は更に理念を振り返る機会を作りたいとしており、毎月の運営会議の中に振り返りの時間を作っていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や回覧板の受け渡しを行っている。地区の防災訓練の炊き出しをする予定である。	隣近所との友好な関係が築かれ、ホームの文化祭への作品展示や、庭の環境整備、運営推進会議への参加、一方で行政に相談し紹介された長寿村の利用(週2参加)が筋力低下防止や充実感のみならず近隣住民との交流促進に繋げている。野菜の持ち届けや保育園児との交流、近くの八百屋まで入居者と出かけたり、自治会に加入し、回覧板の受け渡し等一軒の家として活動している。また、自治会活動の一環である防災訓練への参加が消防団との協力関係の強化へと繋げている。	ホームで開催されている“技”をテーマにした文化祭の作品は入居者の生きざまや得意分野が表れ、ホームでの生活の彩りや入居者の自信回復の一環とした生かされている。開催日程を検討いただくと、更に見学者も増える事と思われ検討いただきたい。例:運営推進会議とのタイアップ等
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時、事故報告書を提出し意見をもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に事故報告を行っているが、市や包括、地域住民の方の質問や意見があり、対応方法の見直しやサービスのみ直しを行っている。	運営推進会議は、自治会長、自治委員、民生委員、近隣住民、行政、地域包括支援センターや家族をメンバーとして二ヶ月毎に開催。行政により報告内容は決められているが、参加者との意見交換の他、地域から行政への依頼も出来る有意義な会議であることが報告書により確認できた。市の防災訓練時には自治会長の要請もあり、ホームで炊き出し訓練も予定される等地域との関係も垣間見える会議である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型会議を通し、情報交換や相談を行い関係を築いている。介護保険で解らないことは相談し、回答を得ている。アンケート調査にも協力している。介護相談員の方が来られありのままを見てもらっている。	運営推進会議を通じた情報交換や地域密着型会議時等での意見交換、集団指導の他、不明な点は相談し適切なアドバイスを得ている。介護保険更新を代行し、訪問調査時立会い情報を発信している。また、サポートセンターを受託し住民の相談に応じ、介護相談員制度を利用する等各関係機関と相互協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会でされる研修に参加し、拘束となる行為や要素の認識を深めており、身体拘束はしていない。	身体拘束廃止に向けた指針を掲げ、拘束や虐待を行わないことを前提として、身体拘束廃止委員会（法人全体）での研修や事例検討により拘束の弊害を正しく認識している。言葉のチェックリストや目標を掲げる等職員一人ひとりが意識を持ち、入居者の帰宅願望と一緒に外出する等束縛の無い自由な生活を支援している。家族の同意の下、転倒の回避、予防の一環としてセンサーを設置しているが、拘束の面から検討し行動の見守りを徹底することを申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の研修で虐待について学ぶ機会があり、虐待はしていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行っている権利擁護の研修には全員参加、参加できなかった職員には伝達講習で制度について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項に添って、丁寧に説明を行い契約を締結している。不安や疑問がないか時間をとり、納得のいくように図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただくご家族を月別担当制にし、幅広く市や包括の職員、地域住民のメンバーに意見を表せる機会を設け運営に反映させている。	家族の訪問時に声をかけ意見や要望を聞き取りする中で、家族からの感謝の言葉に、気づかれたこともお聞かせくださいとあらためて依頼している。また、家族会や運営推進会議も問題提起の場としてサービスに反映させている。職員よりの家族への情報発信や文化祭などの工夫は家族に信頼を与えていることがアンケートの中に表れている。また、入居者にも寄り添い、要望等を聞き取りしており、外出の要望等個別支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行われる運営会議に職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、日常業務の中でも意見交換の機会を得ており運営に反映させている。	毎月の運営会議のなかでの業務改善へ向けた意見交換や、委員会活動が活発な法人であり委員会からの報告をもとにした話し合い等により業務マニュアルを変更している。また、管理者は職員とのコミュニケーションを図り、表情により声をかけアドバイスしたり、個別面談により意見等の他悩みや心配事を把握し、相談に応じている。有休の取り方等も全員で検討しており、働きやすい環境が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職場の人員配置、給与の保障、ハード面の職場環境は整っている。必要な物品の購入など対応が早い。定年になってからでも働ける環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は計画的に行われており、学ぶ機会はある。市主催や介護保険サービス事業所部会の外部研修にも参加する機会があり、働きながらトレーニングしてゆくことが継続されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型部会の会議での意見交換や交換研修で交流を深めている。熊本県認知症グループホーム協会水俣・葦北ブロックの事業所同志研修を通しながら交流や学ぶ機会を設け質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入する段階で事前に情報をもたせてから入られるので気をつけないといけない事は事前に気をつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを提供する段階で丁寧に時間をかけ不安がないか要望はないか聴く姿勢で関係づくりに努めている。家族とのコミュニケーションはとれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望に沿って対応している。リハビリに通わせたいと要望のある家族に市と相談、支障なく要望に沿うことができた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が出来る事又は、役割と感じていることを暮らしの中で実施できるように努めている。同じ家に住む者同士支えあって生活するよう職員も注意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅に連れて帰ったり、受診に付き添われるなどされている。面会もよく来られている。家族が来られた時はコミュニケーションに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に気軽に来れるように笑顔で対応している。行きたい場所との関係の支援は少ないので努力していきたい。	毎月遠方の姉妹の訪問を受ける入居者や、七五三のお祝いでの外出、遠方の家族の帰省に合わせて一緒に過ごす方、家族との外泊(自宅)等家族の協力を得ながら馴染みの関係性を継続している。また、盆饅頭や十五夜にすすきを活け外で月を愛でたり、編み物、生け花、絵画等趣味や慣習の支援の他、入居者同士の思い出話が馴染みの関係強化として生かされている。	管理者は、昔住まれていた場所、昔の仕事の場所や話の中に出てくる言葉等に更に沿いたいと意欲的である。今後も、入居者や家族の情報を生かしながら、これまでの関係性を継続していきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しい雰囲気ですぐに毎日過ごせるように利用者同士の関係に努めている。時には職員が間に入って関係を修復したり、利用者同士が関係修復する力を支えたりしながら努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもできる限り差支えないところで声掛けをしたり、相談や経過を見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿って外出したい時や入浴の希望があれば入れている。	入居者の中には外出の希望等直接の申し出もあるが、自分から伝える事や意思表示もままならない状況もあるなかで、表情や行動を推察し、ゆっくりと関わり、本音を引き出すよう努力している。また、家族が入居者の思いを代言されることもあり、検討しながら入居者の思いに応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が気持ちよくしていただけることをしてもらっている。本人の生け花などしたい事を続けてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を観察し、変化がある時には看護師へ報告、必要な受診に繋げている。他者とのコミュニケーションでトラブルになりそうな時は職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時に施設での様子を伝えている。また、相談やお願いをしている。運営会議でケアプランについて職員と話し合いを行っている。管理者に確認をしてもらっている。	毎月の運営会議の中でのケアカンファレンスやケアマネジャーによりモニタリング、問題発生による話し合い等を行っている。入居時にはまずは情報を把握する期間を作り、家族と話し合い(担当者会議)、意向や要望をプランに反映させている。介護認定更新や心身の変化により、本人・家族と話し合い新たなプランとし、日々の介護記録に計画書を添付し、具体的に記録することで職員の気づきをプラン作成に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員ノートを利用し、会議録を読んでもらっている。特別な時は記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望により、長寿村に行かれリハビリなどの支援を受けておられる。管理者や他職員又、包括や市の高齢課に相談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にタクシー会社があり、利用している。教え子だったり、認知症サポーターの講習を受けている人が運転手だった為、協力を得ることができた。交流や足の運動も兼ね八百屋さんに最近出かけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人家族の希望の以前からのかかりつけ医を継続しながら、受診時に情報提供を行い適切な医療が行えるよう支援している。	これまでのかかりつけ医を継続し、受診はタクシーを利用し、受診介助は受け持ちで行っており、日ごろの状態や受診結果なども必要に応じて家族へ報告を行っている。高齢の入居者においては、身体的な負担を考慮し往診で対応している。職員は毎日のバイタルチェックや食事摂取などから健康状態を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、細かな変化を報告し情報交換、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護・介護サマリーを用いて情報提供を行っている。解らないことは電話相談できるよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に出来る事や出来ないこと、終末期をどのような形で迎えるのか経過を見ながら早めに家族と話し合いを行っている。動く気持ちがあることも踏まえて話し合いを重ねるなど取り組んでいる。	入居時にホームに出来る事、出来ない事を伝え、家族の意思確認は書面に残している。終末期は、本人の状態などから家族の思いも変化すると捉え、管理者は必要に応じて思いをくみ取りながら相談などに応じている。これまでホームでの看取りを希望されたケースがホームの在り方に繋がっている。	今後は必要に応じ職員のメンタル面を含めた研修の開催に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、法人で急変時の対応の研修を行っており、職員間で連携をとり役割分担し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災計画をたて訓練を重ねている。地域の消防団との連携や近隣との協力関係は今後も構築してゆく必要がある。	火災避難訓練時には近隣住民の参加を得て、自主訓練や消防署の協力により年2回夜間想定で実施されている。地震の避難訓練の際は、職員もヘルメットを装着する必要を指導されている。地域の防災訓練では避難先で炊き出し訓練が行われている。居室入り口には独歩や車椅子など移動手段を示し、防災ズキンを準備している。管理者は地域消防団にホーム内を見てもらおう機会もあり、更に協力体制を深めていくことを課題に挙げている。	運営推進会議の中で大雨時の対応確認など、行政面から指導が行われている。昨今の自然災害は予測不可能な点が多く、今後も火災・自然災害の対応について意識をもって取り組まれることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを行っている。トイレなどは小さな声で耳元で声かけるようにするなど今後は行ってゆく。	職員はトイレの誘導や確認も小声で行う他、居室の排泄用品は見えないよう工夫し、ポータブルトイレも使用しない日中はカバーをかけるなど配慮している。入居者への声かけも腰を下ろし、ゆっくり目線を合わせて会話する職員の姿もあり、身体拘束委員会のなかで職員の言葉使いをチェックしている。入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重した支援や入居者同士も労い合う等、尊厳のある生活を支援するホームである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり急がせないように言葉かけを行い、自ら考えることが出来るように答えを待つようにし、自己決定を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されないように、その人の体調や希望に応じて一人一人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない人には介助して身だしなみを手伝っている。肌着が洋服の下から出ている人にはズボンの中に入れてたり被せたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自主的に手伝われる人には調理の準備や、後片付けを一緒に行っている。皆さんで手分けしてゴーヤの漬物づくりをした。	法人栄養士が作成した献立を基本にしながから、入居者の希望や家族からの差し入れ等を活用しながら、ホーム独自のメニューを提供している。昼食は専任者が中心に行っており、飾り切りや盛り付けなど、目でも楽しめる食事である。入居者が食へ関わる機会も多く、食材の買い出しや野菜の下ごしらえ、下膳などが行われている。また、干し柿や職員が山から採取した団子の葉でおやつ作りなど、様々な工夫が聞き取りや記録物からも確認された。入居者の嚥下力に応じた食形態で準備しており、トロミ食についての研修会も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立にそって栄養確保に努めている。水分の少ない人には水分量をチェックし、飲む好みや量習慣を考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に添って口腔ケアの声掛けや支援、口腔内のチェックを行っている。自分でできているようで十分でない人には、傷つけないような対応でチェックしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握し、力に応じた排泄の支援を行っている。布パンツにパット対応など極力オムツを使わないようにしている。	個々の排泄パターンをチェック表で管理し、時間誘導や自立の方の継続に努めている。殆どの方が布パンツを使用されており、併用の排泄用品も昼夜で使い分けている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレは、その都度洗浄し気持ちよく使用できるようにしている。また、食後はトイレが混雑することもあり、その際はやむなく自室のポータブルトイレの使用をお願いしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、野菜を多く、水分確保を行いながら出来るだけ歩かせている。どうしても便秘の人には医師に相談し、下剤を調整し便秘が身体に及ぼすことがないようにしている。ヤクルトの飲用もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日程は予め決めてはいるが、入浴の時間は声掛けを行い介助している。希望があれば曜日に拘らず介助し、断られる場合には声掛けの工夫をしたり、翌日にするなどしている。	本人に午前・午後の時間帯の希望を尋ね支援している。週2~3回入ってもらえるようにしており、汚染時はその都度対応している。脱衣所や浴室は整頓を心掛け、滑り止めマットや手すりの設置、浴槽の淵に滑り止めテープなど安全面にも十分配慮している。職員は入居者個々に応じた会話や湯船に浸かることで寛いでもらい、入浴後は保湿や水分補給に努めている。入居者の中にはシャワーを希望される方もあり、かけ湯により温まってもらう支援している。菖蒲や柚子などの季節湯は全員が楽しめるよう3日程実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、希望に応じて休息の時間を確保している。テレビなど見たい番組を見せて安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をカルテの裏に閉じ、いつでも見れるようにしている。受診で内服が変更になった場合には、申し送り情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花が好きな入居者さんに季節の草花で生けてもらっている。皆さんが好きな団子づくりなど皆で作る事が出来た。外出の希望があり、都合をつけ外出支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と家族の結びつきが強く、積極的な外出が出来ている。普段行けないバラ園やコスモス見学など入居者全員で出かけることが出来た。祭りに行きたいと希望あり出かけた。地域の人の協力は得られていない。	家族の協力も得ながら、入居者が季節を感じ戸外に出る機会が持たれている。地元のバラ園・桜・コスモスなどの花見物や、近隣の商店での買い物、水俣川までの散歩など地域の人々と会話する機会もなっている。8月に開催した夕涼み会は、花火の準備や『氷』ののぼりで雰囲気を出し、近隣者と一緒に夏の思い出が作られている。また、数名であるが、庭先でのお月見も楽しまれている。	週2回利用施設院の送迎による針治療に出かけられる方や、受診外出時に買い物や花見物など希望や個別での外出も行われている。今後も一人ひとりの状況に応じながら外出支援に取り組まれることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ希望のある人には、持たせて使わせている。管理できなくても家族の希望や持つことで安心できる人には紛失のリスクを伝えて所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時には電話をかけている。手紙のやり取りは少ないが、暑中見舞いのお手紙を書いてもらい家族が送付された。またお便りに家族あてに一言書いてもらった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、音楽の音など大きくなりすぎないようにしている。食堂には花を飾り季節感を取り入れたたり、廊下には殺風景にならないように壁飾りをしている。	玄関先には秋の収穫物(稲穂・唐芋・里芋・アケビなど)を置いたり、ホーム内の飾りつは華美にならない季節の物を心がけている。文化作品展(入居者の色鉛筆画や編み物、地域の方の工芸品・保育園児の作品など)は、回を重ねるごとに賑やかな展示となっており、今年は『技』がテーマとなっている。廊下を上手くギャラリーに活用した配置は、目を見張るものがあり、入居者も自身の作品を嬉しそうに案内してくれる姿が印象的であった。共有空間のテーブルやソファの配置は、入居者の状態に応じて活動しやすい環境を検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置換えや1人でも多く座れるように工夫している。自然と気の合う利用者が集まる時もあれば遠慮される利用者もあり居場所のバランスに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居時に家族に相談し、本人の居心地のいいように家族が配置をされている。また本人の好みの物を配置されている。	居室の準備品としてこれまで使われていた物や、安心される物などを持ってきて欲しいことを伝えている。籐のチェストや椅子、思い出の写真、大正琴が持ち込まれた部屋など、家族の思いやこれまでの生活歴が表れた居室である。入居後も必要な品やベッドの配置など、家族と連携しながら進めている。居室の掃除や換気は、担当職員が中心に行う他、歩行や車椅子対応等安全な居室環境であり、入居者の自由な空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所、トイレの場所が解るように花紙や紙に書いて目印をしている。廊下や居間は自由に安全に行動できるように環境整備している。		